道守 通信

みちもり

MICHIMORI TSUSHIN

vol.22 秋号

みちづくし in 佐賀2011

クロスロード佐賀

多彩な「佐賀の道」への誘い

道守九州会議交流会

未来をひらく　つながりの道

巻頭随想—キラリ　久留米

趣きある道・輝く人・そして輝くまち

楢原利則

巻頭随想

楢原利則

TOSHINORI NARAHARA

キラリ 久留米

趣きある道・輝く人・そして輝くまち

久留米市は、人口約30万人を擁する中核市であり、藩政時代は有馬氏21万石の城下町として栄え、近代では久留米絣やゴム産業の街として、近年は高度医療都市として発展を続けています。

都心から一歩離れると、九州一の大河筑後川の雄大な流れ、屏風のように連なる耳納連山、その麓一体には田園風景が広がり、植木や花木が季節ごとに彩りを添えるなど、一年を通して豊かな自然を満喫することができます。

この肥沃な大地は、上質な米麦、多彩な野菜やフルーツを、豊かな水はうなぎやエツなどの川の幸を育んでいます。人々は古くよりこの自然の恵みを生かした食文化を築き、全国屈指の酒蔵を有する街、今ではとんこつラーメンに筑後うどん、焼きとりに象徴される「B級グルメの聖地」としての評判も高くなっています。

また、青木繁、坂本繁二郎、古賀春江といった近代日本美術を代表する芸術家が生まれ、匠の技を伝える久留米絣や籃胎漆器、城島瓦などの伝統工芸や、近代久留米の発展を支えたゴム産業など「ものづくりの心」に触れることができ、これら久留米に息づく地域資源は、市のいたるところで継承されています。

そのような久留米市の東部、耳納北麓地域は、里山や農村風景等の自然や地域の特色ある歴史、連綿と受け継がれた文化や伝統、歴史的な町並みなどの魅力ある資源と併せて花や紅葉などの季節ごとの観光スポットも多数点在。特に櫨並木の紅葉は、筑後地方の秋の風物詩として、多くの観光客を集めております。

この地区は、『御井の三泉、高良川・草野の里を巡るみち』として、同じ耳納北麓地域にある『農村アメニティ・山苞のみち』とともに「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれています。

さらに、東に隣接するうきは市まで伸びるこの一帯は、柿やぶどうなどの果樹栽培、『ツツジ』や『ツバキ』などの植木の生産も盛んであり、長い歴史とともに自然に溢れる空間が広がっています。

市では、この地域の多様な資源を活かして、地域と協働し、都市と農村の交流を促進し、地域の活性化や緑の産業振興を目指し『みどりの里づくり』事業を推進しております。

今後は、国土交通省で進められております『日本風景街道』の趣旨を活かし、九州を横断する国道210号、耳納北麓をつなぐ県道151号線の連携やアクセス向上とともに、多くのお客様を呼び込み、地域の魅力を体感していただきたいと考えています。筑後川を臨み、緑溢れる耳納北麓地域一帯に期待を込め、現在、地域の人々と訪れる人との交流が広がる『風景街道ルート』として提案する準備を進めているところです。

耳納北麓地域一帯の景観・自然・歴史・文化を繋ぐ『趣きある道』によって、訪れていただく方の心に誘い、人が輝き、賑わいのあるまちづくりを推進していきたいと考えています。

■プロフィール

昭和23年生まれ、西南学院大学卒。昭和46年久留米市役所入所。人事研修課長、清掃部次長、環境部長、総務部長を経て、平成19年副市長に就任。平成22年2月より久留米市長。「相手の立場にたって考える」が信条。

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろう。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一歩踏み出そう。

とるぱ　干潟よか公園（東与賀町）

CONTENTS

01 巻頭随想―キラリ 久留米
趣きある道・輝く人・そして輝くまち
楢原利則

みちづくし in 佐賀2011
02 クロスロード佐賀 多彩な「佐賀の道」への誘い

04 道守九州会議交流会
未来をひらく つながりの道

08 道守の輪

09 私たちの道守活動

12 ご存知ですか？
20年後、九州の橋が50歳に
点検と補修で老化防止

13 東九州自動車道の工事、着々と

14 わたしの好きな道
心に残る「ひのはしら一里塚」
八頭司美紀

15 海外道事情
道を「楽しむ」―米国サンフランシスコの事例より―
柴田 久

16 九州風景街道「フォトコンテスト」■初の入選作品

17「もっと、風景街道の情報発信を」

18 道守人物伝

18 道守たちのトピックス

表紙画：久冨 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

みちづくしin佐賀2011 クロスロード佐賀

多彩な「佐賀の道」への誘い

「みちづくし in 佐賀2011」が11月2、3日、佐賀で開かれる。九州各県の「道守」さんが年に1回、交流を深め、情報を交換する貴重な機会だ。開催日にはバルーンフェスタ、唐津くんちが行われ、佐賀が一年で最も賑わう季節だが、佐賀には古代の道から日本近代化の道まで多彩な道が存在する。せっかくの機会だから「クロスロード佐賀」も楽しみたい。

なんといってもシーボルトも歩いた「長崎街道」。佐賀鍋島藩が長崎の警備役を担ったことから、西洋技術・文化をいち早く取り入れ、文明開化、明治維新をリードするテクノポリス的存在だった。技術の伝播の道という意味では、遠く2000年前、秦の始皇帝の命を受けて不老長寿の薬を求めて佐賀にやってきたという「徐福の道」、我が国最古の縄文稲作遺跡「菜畑遺跡」（唐津市）から弥生の「吉野ヶ里遺跡」などの稲作の道、やはり苦難の末、海を渡り坊津―有明湾から佐賀に上陸したと伝えられる、仏教の隆盛につくした「鑑真和上の道」、お菓子（砂糖）の道「シュガーロード」、陶磁器を世界に運んだ「セラミックロード」など、興味は尽きない。駆け足で佐賀の「みちづくし」を紹介しよう。

○近代化への道

みちづくしの会場となる、佐賀市内から一歩を始めよう。佐賀鍋島藩の本丸御殿が再現され、お堀周辺は大クスの木が茂る絶好の散歩道だ。すぐ近くに佐賀県民上げて運動している世界遺産・九州・山口の近代化遺産群の中核として、日本初の鉄製大砲鋳造所「築地反射炉跡」、さらに黒船来航に対応して幕府の依頼を受けて防衛用の大砲製造のため建設された「多布施反射炉跡」、大砲など武器製造を学問的に支え、技術者養成にあたった「精錬方跡」などがある。

これらは佐賀藩が江戸時代、我が国唯一の「文明の窓」だった長崎の警備役を務め、直接、西洋文化、技術導入の必要性をどこよりも切実に感じていたことによるといえるだろう。佐賀で鋳造された大砲が江戸・品川の砲台に据えられたこと一つをとっても、佐賀が最先端を走っていたことが分かる。

○稲作文化の道

しかし、日本を変えた技術導入からすれば「稲作技術」は大きな意義を持っている。北部九州に上陸した稲作は北上、日本列島を「稲作文化」に大変革させた。その最古の稲作遺跡が唐津市の「菜畑遺跡」だ。唐津市の「末盧館」に初期稲作の遺物が保存されている。縄文末期のもので「稲作始まり―弥生時代」の日本史を書き換えさせた。稲作文化は新たな国つくりの契機となり、末盧国から伊都国、奴国そして邪馬台国へとつなぐ道となる。大ブームを引き起こした吉野ヶ里遺跡では物見やぐら、神殿など復元工事が進み、国営公園に足を踏み入れると「弥生」の世界」にタイムスリップする。

その吉野ヶ里遺跡の北側には奈良時代の「官道」が残っている。丘を切り通し、佐賀大和の「国府」からまっすぐ大宰府政庁に走る。現在の九州高速道（長崎道）と並行してルート設計がされているのには驚かされる。「国庁跡」は国の特別史跡に指定され、資料館も興味深い。

○大航海時代の道

外国文化は大海原を渡って日本に伝来したが、それをもたらした「渡来人」の元祖ともいうべき人物は「徐福」。佐賀の人は徐福さんと、親類の人を呼ぶように親しみを込めている。2000年前、秦の始皇帝が不老不死の妙薬を求めて徐福に渡海を命じた。童男童女3000人と技術者集団が五穀の種子を積んで大船団で渡来した、という。そうした言い伝えは日本中にあるが、佐賀のそれは現代に生きている。「徐福」は佐賀の銘菓となり、薬草館もある。上陸の記念碑や、神社（金立神社）があり、何より中国の徐福のふるさととの交流は、日中シンポの開催など、どこより活発だ。

現在も日本人の精神文化の中心は「仏教」だが、その伝来者の最大の人物が「鑑真和上」。5回の遭難に合い、視力を失っても日本に渡って仏教の本道を伝えようとした信念の人。鹿児島・坊津に漂着、そこから有明海を通って佐賀に上陸、太宰府、奈良へ上って戒壇院を建て僧侶の教育に当たった。佐賀市内の森林公園内には石碑と渡海の赤い船の記念碑がある。

○陶磁器の道

海を渡って「来た」渡来人の道と同時に、海を渡って「行った」道が「陶磁器の道―セラミックロード」だ。焼き物の里・有田は5年後の平成28年「有田焼操業100年」を迎えるが、そのプレイベントとして「海を渡った古伊万里・セラミックロード」展が開かれている（12月4日まで、佐賀県立九州陶磁文化館）。17世紀後半から、古伊万里はオランダ東インド会社などの船で世界各地に運ばれた。展覧会だけでなく同館の収蔵する名品・陶磁器を堪能する絶好の機会だ。

有田焼と肩を並べる唐津焼き。窯元を訪ねるのももちろん楽しいが、ぜひおすすめが「虹の松原」の散策だ。植物学者・昭和天皇が愛された松原の道だが、松原の中を通る国道202号は玄海風景街道のハイライトの一つだ。松原を守るため、大型トラックは通行禁止。オゾンいっぱいの道で行われる唐津10マイルレースは日本トップレベルの記録を重ねている。

○シュガーロード

最近の「長崎街道」のハイライトは砂糖の道―シュガーロードだ。もともと佐賀にルーツを持つお菓子は「羊羹」など数多いが、知る人ぞ知る、菓子業界のトップ「森永」や「グリコ」の創業者も佐賀出身だ。砂糖は長崎に上陸、カステラなど砂糖たっぷりのお菓子を作り出したが、佐賀には長崎街道を伝って「お菓子の道」が出来た。その象徴が「小城羊羹」と言えようか。小京都と呼ばれる小城に羊羹店が軒を並べ、羊羹博物館もある。甘党には見逃せないスポットだ。

秀吉の朝鮮出兵基地となった名護屋城は黒沢明監督の「乱」のロケ地。城跡から「太閤の道」が伸びている。戦国武将の「陣屋跡」めぐりも興味は尽きない。国庁跡近くの江戸時代の利水事業「石井樋」など水の道も見逃せない。

○「お見逃しなく」

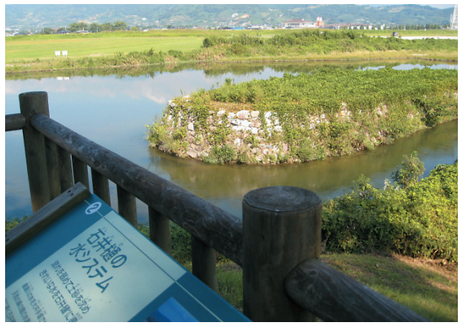
美肌温泉で有名な嬉野を走る国道34号線に湯野田橋がかかっている。明治21年に作られたアーチ式の石橋で、今でも使われている、国道にかかる最古の橋だ。素晴らしい景観を見せる「轟の滝」からやや嬉野市街側にあるが、一瞬で走り抜けるので、気が付く人はほとんどいない。古びた記念碑が橋のたもとに立っている。また、呼子大橋は日本一のコンクリート「斜張橋」として有名になった。

また佐賀市内・与賀神社の国の重要文化財「石橋」は藩祖・鍋島直茂公の建立で、慶長11年（1606）の銘があり、我が国最古級の橋だ。この石橋も、今も使われている。幕末の橋としては八天神社（同県塩田）の神橋は嘉永七年（1854）、石造アーチ橋で当時の石工の技術の高さを伝えている。いずれも、お見逃しなく。

（玉川孝道）

肥前国丁跡

虹の松原を走る道



石井樋の堰

呼子大橋

未来をひらく、つながりの道―をテーマに「みちづくし in 佐賀2011」は11月2、3日佐賀市で開かれる。交流会（2日、アバンセ）でのパネルディスカッションは、これからの道守活動のあり方を、これまでの活動体験に基づいて率直に語り合う場となる。開催を前に、パネリストの活動報告を特集した。当日は、フロアーからの発言も歓迎で、「未来をひらく」論議の深まりが期待される。（敬称略）

○司会
川上義幸（佐賀大学監事、元佐賀県副知事）
○パネリスト
佐賀「√佐大」日隈　諒
鹿児島「ばら通り220」神田橋万聖
長崎「小浜温泉57」宮田　隆
熊本「NPO法人ネット八代」理事長・岡田敏代
大分「中九州横断道路」早期完成を願う女性の会・古庄京子
福岡「道守柳川ネットワーク」山田三代子
宮崎「宮崎フラワーロードネットワーク」新名典忠

コーディネーターの「ことば」 川上義幸氏

将来に目を向け道守活動を、いかに継続し発展させるか

道守九州会議交流会が佐賀市で開催され、パネルディスカッションのコーディネーターを務めることになりました。頂いたテーマは、「未来をひらく、つながりの道」です。このテーマを私なりに考えてみました。

「未来をひらく、つながりの道」という言葉には、道路空間そのものが私たちの将来の生活を豊かにする多くの可能性を秘めたものですから、この空間をどのように活かし地域の未来をひらくことを考える、そのことを示唆しているように感じます。そして、「道守」の活動そのものが地域に住む方々が道路空間をより良いものにする具体的な取り組みですので、これをどう継続し発展させるかは道守九州会議交流会の役割を再認識させる問題提起をした言葉かもしれません。

佐賀大学では、次の土木技術者を育成し、土木分野の将来を担っていただきたい思いから、国や県の行政経験者OBにボランティアで教育活動に支援を頂いています。

今年の夏休み期間に、集中講座を開講しました。

今回のパネルディスカッションでは将来に目を向け、広がりのあるテーマを頂きましたから、パネラーの方々からは夢のある提案を頂けると幸いです。

パネリストの活動報告

佐賀

√佐大
日隈　諒

若者と街の「かけ橋」に 塾経営、フリーペーパー、体験職場など多彩に展開

〝佐賀の商店街には何も無い〟このような印象を持っている大学生が多い。でも、佐賀には佐賀のいいところがたくさんあります。

√佐大は街づくりを目標にした大学生の団体で、佐賀市の商店街に拠点を置いて活動しています。自分たちと同じ大学生を始めとした若者にもっと街なかに来てもらいたいという思いから、『若者と街を繋ぐ架け橋となる団体』を理念として掲げ、活動しています。

主な活動としては、小中学生を対象とした塾『寺子屋ばるん』の運営、街なかの良さを外部に発信するためのフリーペーパー『まちなか瓦版』の発行を行っています。塾の運営は週3日。商店街で塾を運営することで、将来を担う子供たちを育て、同時に指導をする大学生の成長にも繋げられたらと考えています。

フリーペーパーは、2ヶ月に1回発行しています。内容は商店街のお店の紹介や、商店街でのイベントの告知などです。このフリーペーパーをきっかけに自分たち団体のメンバーもさらに街なかの良さを再発見することもあります。

夏休みは、塾の延長として宿題完成塾という企画とこども店長体験という小中学生の職場体験を企画・実施し、大変良い反響がありました。

鹿児島

バラ通り220
神田橋万聖

家族ぐるみの参加で バラで「街も道も」イメージアップ

私達の「ばら通り220」は国道220号鹿屋バイパスの国道、県道の交わる札元交差点より西側の約300mの範囲を拠点としています。バイパスの4車線化に併せ、平成15年より国土交通省、鹿屋市の協力を得て国道花壇に「うらら」「アイスバーグ」「ラブ」の3種類の「ばら」約500本を植えて新名所にしようと、札元地区の町内会、老人会及び企業の参加により10団体で「ばら通り220協力会札元地区」を結成しました。

主な活動として年7回の計画のもと各団体が交替で花壇の手入れ、草取り、剪定などを行っています。なかでも町内会においては除草作業等に、子供さんを含む家族ぐるみで参加をいただき大変うれしく、子供たちが幼いながら出来る手伝いに一生懸命頑張る姿は、一服の清涼剤です。また、数年前からエリア内にある数社の店舗が自主的に除草手入れ等を行うなど「ばら通り」への関心が高まっています。

こうした活動が実り毎年春、秋には赤、白、ピンク、色とりどりの花を咲かせ地元住民や、ドライバーの皆さんの心を和ませているようです。

長崎

小浜温泉57
宮田　隆

ゴミ拾いなどを習慣づけ、活動を広げる 新しい公共パワーを孫たちに引き継ぐ

小浜に移り住んで12月で6年経つが、現在の生活の中で〝道〟を通じて、対話・交流を行い地域の状況が分かるようになった。言いかえれば、道守活動で世の中が見え、街が綺麗になり、地域との交流・季節の移り変わりが分かるようになった。ゴミ拾いなど毎朝同じことを習慣付けてやると自然に対話も増え、最近では、道行く小学生が、〝宮田さんゴミが落ちていまーす〟と挨拶代わりに言い

寄ってきます。ボランティア団体の小浜温泉57の活動方針は観光地らしく「美しい心　おもてなしの心」、「あるものを活かした街づくり」。新しいものを作るのではなく、すでにあって現在使われていないものを活用し、先人の遺産を活かした地域活性化、文化活動を市民ぐるみで展開中です。

道守長崎では新しい時代の活動継続を前提にNPO法人道守長崎の阿野理事長を中心に〝社会実験〟に取り組み、今後はその成果を日頃の活動に活かすべく議論し、活動中であります。

熊本

NPO法人ネット八代 理事長 岡田 敏代

心を「花」で表し、おもてなしタイアップ企画で大きくアピール

熊本県では、今年は3月に九州新幹線が全線開業したことを受けて、九州新幹線全線開業を盛り上げる様々な活動が行われました。その一環として道守くまもと会議も県の支援のもと、「花いっぱいでおもてなし」活動を行っています。

「花いっぱいでおもてなし」活動は、私たち道守くまもと会議の活動の中軸を担う、国道3号線および57号線沿いの約30ヶ所で展開している道守花壇を中心に、新幹線の停車駅でイベントを行うという企画です。

熊本県内の新幹線の停車駅は、玉名駅、熊本駅、八代駅、水俣駅の4駅。これまでに、それぞれの駅でコンサートや花植え体験、美化清掃活動などを行いました。

九州新幹線全線開業で多くの観光客の方々をお迎えするということで、熊本県民のおもてなしの心を「花」で表し、観光客の方々はもちろん、地元の方々にも好評をいただきました。普段は目立たない活動も、九州新幹線全線開業とのタイアップ企画で、大きなアピールができました。

また、肥薩おれんじ鉄道八代駅では、東日本大震災により被災した同じ第3セクター鉄道である岩手県の三陸鉄道のグッズを販売しています。また、9月には熊本市中心部の下通りアーケードにおいても、三陸鉄道グッズのチャリティー販売を行いました。

鉄道も人と人をつなぐ重要な道の一つ。とりわけローカル線は学生やお年寄りの重要な足となっています。九州圏内はもちろんのこと、全国で協力し合ってそんな道を守ることができたらと感じています。

大分

[中九州横断道路]早期完成を願う女性の会 堀　幸子

道づくりは街づくり人づくり親の後ろ姿で、子の心が育つ

「こどもや孫たちに住み心地よいふるさと竹田を継承しよう!」というスローガンを掲げ、私たちの会が発足してやがて10年を迎えようとしています。

命と生活のみち[中九州横断道路]を一日も早く整備して頂くことに私たちの町の存亡がかかっていると、私たちはなりふり構わず真剣に要望活動に取り組んできました。

要望活動の傍らに学習会もしてきました。そしてその中から、道づくりは街づくりであり人づくりであることを学んできました。そんな時、道守活動に出会いました。道は造ってもらうだけではいけない、使う私たちも大事にしなければ(維持管理)、使う人々が気持ちよく使ってもらえるようにしなければと。これは道をつくって下さった方々への思いやりであり、また道そのものへの思いやりであり、道を使う人々への思いやりでもあります。どんな些細のものへも思いやりを持つことの大切さは、大震災に苦しむ現在の我が国にとって最も大切ものかもしれません。

私たちは他団体の仲間と共にささやかな行動を通してこの道守活動を楽しんでいます。国道57号線の草取り、清掃や花植えをしています。国道57号線沿いに位置する菅生小学校は、ごみゼロ作戦と称して沿道のゴミ拾いをしてこの活動に参加してくれています。本年度は、この最中に車を飛ばして通過する人がいて危ないので、警鐘をならす看板を作ってくれました。こうして、道(道守活動)を通して、こども達の心が育っていくことは嬉しい限りです。

子は親の後ろ姿を見て育つと言われます。地域のこどもたちと共に道守活動を通して更に育ちたいものです。

福岡

道守柳川ネットワーク 山田三代子

「草取り」イメージをもっと広げよう交流や意見交換で人の輪、連帯感を

道守柳川ネットワークは平成16年8月、市の協力を得て13団体200人でスタートしました。まず観光地柳川を訪れる人々に美しい柳川を楽しんで頂くために、3月のひな祭り・さげもんめぐり、8月のソーラーボート大会、11月の白秋祭川下りなどの前に沿道を清掃することから始めました。それに伴い、道や橋などの工事現場の視察や、様々な分野の方から「道」について話をして頂いたり意見交換会を行ったりと、道に関する勉強会も積極的に開いてまいりました。今年で8年目に入り32団体600人に成長しておりますが、お陰さまで柳川の景観もこころなしか足元から鮮やかさと和やかさが引き立ってきたように思われます。

しかし課題もあります。「道守」の名称が市民の皆さんにかなり知られるようになったと喜んでいた矢先のことですが、いつもの通り道守会議を開くご案内を差し上げたところ「草取りの会議ですね」という返事が返ってきたのです。今まで確かに清掃つまり草取りが主たる活動になっていました。道守の活動は決して清掃が総てではなく、街あるきやマイツリー、花植え、周辺地域の道守さん達との交流会や意見交換会など楽しいこともたくさんあることを知って頂く努力が必要であることを感じた次第です。

道をはぐくむことで美しい自然とのつながりを肌で感じることができ、美しい環境を共有することで連帯感が深まっていく、そんな人の輪を広げていく運動なのだということを思いながら「できる人が　できることから」をモットーに無理せず皆で楽しみながらこれからも続けていければと願っております。

宮崎

道守みやざき会議 代表世話人 新名 典忠

県内の道守ネットワークの拡充に向けて

道守みやざき会議年次総会交流会（平成23年7月15日）

宮崎県では平成16年より、道守みやざき会議を立ち上げ、県北・県央・県南の3つのブロックに分け、それぞれの地域の特性を活かした活動を行っています。

今年度は、この3つのブロックに加え県西ブロックの設立を目指しており、今後は県下4つのブロックで様々な活動を展開していく予定です。

平成19年度からは毎年10月を「道守月間」また第四日曜日を「道守の日」として制定し、10月の一ヶ月間に、それぞれの道守さんたちが行う様々な活動を集約することで県内の道守さんたちのネットワークを広げていくと共に、地域における情報発信を積極的に展開しています。

そんな中、道守さんたちの高齢化や、経費の捻出といった課題も議論されています。地域で始めた活動に若い人たちが参入する環境を整備したり、植栽等の予算を行政に頼らず自分たちで確保しようといった動きも始まりつつあります。

昨年度、社会実験として行った「広告花壇」も本年10月から試験運用を実施し、来年度からの本格運用に向けて準備を整えています。

道守の輪

道守ふくおか会議（北九州ブロック）意見交換会を開催

道守ふくおか会議（北九州ブロック）意見交換会が、8月25日㈭、北九州市で開催されました。また、「北九州市道路サポーター」のうち、39団体が『道路ふれあい月間』における国土交通大臣表彰を受賞されたことを受け、意見交換と伝達式を行いました。約30名が集まり、活発な意見交換等がされました。参加頂いた皆様にとって、情報の交換及び共有、士気の向上に繋がる有意義な会となったように思われます。

～長崎から平戸へ歴史を訪ねて～ 初のながさきサンセットロードバスツアー

NPO道守長崎は、10月22日～23日に日本風景街道「ながさきサンセットロードバスツアー」を開催。

この「ながさきサンセットロードバスツアー」は、NPO道守長崎が実行委員としてお手伝いし、今回、初めて長崎から平戸までのバスツアーを試みるものです。

「ながさきサンセットロード」は、日本最西端の海岸線を北から南までくまなく走るため、どこからでも西の海に沈む夕日が楽しめるコースです。

コンセプトは夕日・教会・橋などのビュースポットを活かした新たな観光ルートづくりであり、このバスツアーを機会に訪れた人が、歴史や文化、自然などを体験してもらい、地域との交流を通じて少しでも地域活性化につながることを期待しています。

『道守の日』一斉活動 ～今年で5年目を迎えます！～

道守みやざき会議は、毎年、『道守の日』を決め、宮崎県内で一斉に道守活動を展開しています。

今年の道守の日は、10月23日㈰で、県内数箇所で道の清掃、花植え、草刈り等を道守さんや一般市民、行政機関などで実施。

平戸市　オランダ商館

国道202号　夕陽が丘そとめ

この取り組みは、今年で6年目となり、県内一斉に活動することで、県内全域への道守活動の普及や浸透、また『道守の輪』の拡大を図ることを目的に活動を行っております。

今回も10月29日・30日に開催される「宮崎神武大祭（神武さん）」の前に、街を花で彩り、清掃を行うために実施しました。

道守会員を増やそう おおすみ分科会『道守かごしま座談会』を開催

道守かごしま座談会を鹿屋市で10月18日に開催しました。

講話では、「ボランティア・人とのつながり」という題でやねだんの豊重哲郎さんにお願いしました。

豊重さんは、柳谷自治公民館長で行政に頼り過ぎない「むら」おこしを実践し、牽引されているリーダーです。

近年、道守もなかなか、会員を増やせない状況であり、「むら」おこしで住民の多くの方を参加させた取組みは、道守会員増員のお手本になるのではないかと、依頼したものです。これからも道守活動の発展のためがんばります。

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 佐賀

道守佐賀会議

みちづくし in 佐賀 2011 開催にあたって

道守佐賀会議は、2004年7月の発足から8年目を迎え、参加会員は44団体、約2千300人（8月末現在）となりました。

今年で8回目を迎える道守九州会議交流会「みちづくし in 佐賀2011」は、九州各県一周の節目であり、実行委員会を5回、準備会を8回開催し、準備を進めてきました。

この交流会で情報交換を通じて相互交流が活発化し、さらなる道守活動の飛躍になればと思っています。

さて、今回のみちづくしでは、テーマを「未来をひらく つながりの道」と題して進めてまいります。各県でも若者の参加や後継者不足にお悩みかと思います。道守佐賀会議では、この交流会に若者が携わってほしいと考え、テーマの「書」を佐賀県立佐賀北高校にお願いしたところ、快諾していただきました。同校書道部は、毎年開催されている全日本高校書道コンクールの団体部門で16連覇を達成し、現在、高校日本一です。書を書いていただいた部員の方は、「書道も書の道です。同じ「道」を学ぶ者として、道守九州会議交流会が盛大に開催されることを祈念しています。」とコメントをいただき、未来をひらいていく、若さあふれるパワーと技で、横断幕、パンフレットのテーマや立て看板などを書いていただきました。若者からパワーをもらい、我々、道守佐賀会議も開催まで全力で頑張ってきました。

この交流会を通じて、「道」が楽しめる場所であることを次の世代に伝え、道守活動をもっと多くの人に広げていきます。交流会では各県の道守さんによる活発な情報交換をよろしくお願い申し上げます。

（事務局長　前窪清美）

佐賀

浜崎みちぐさ会

登校生のあいさつが「はげみ」に

浜崎みちぐさ会は昭和53年設立され、現在会員は16人で、国道263号線沿いのツツジの植栽の手入れ除草作業、浜崎小学校の通学路除草、清掃を毎月第二土曜日に年間11回交互に行っています。

6月～9月は午前7時30分、そのほかの月は午前8時から作業をしますが主に草刈機を使用しますので小中学生の登校時や車の走行には気を遣います。

小中学生の元気な挨拶に肩の草刈機も軽く感じられ作業もはかどり終了後はジュースを飲みながら連絡事項等を周知しています。

会員数が少なく平均年齢も高いので若い方の参加を望んでいます。

（荒田守）

私たちの道守活動

福岡

陣原市民センターボランティアあじさいの会

地道に続ける活動こそが地域のエネルギー

我々は、福岡県北九州市八幡西区のはずれに位置する、陣原（じんのはる）地区に於いて陣原市民センターボランティアグループ「あじさいの会」として、平成15年5月に少人数でスタートしました。

毎月第二土曜日の朝に市民センターに集まり、ＪＲ陣原駅前を中心にその周辺の草取り、空き缶拾い、ゴミの収集等を実施しています。とにかく無理せず、急がず、息長くをモットーに今日まで続けています。

この地道な活動が、認められ「道路ふれあい月間（８月１日～31日）」にあたり、国土交通省より道路交通の安全と正しい利用の促進、路面、横断歩道の清掃、路肩の除草、花壇の整備等、多年にわたり功績のあった民間の団体または個人に対して感謝状を贈り表彰するとのこと。平成23年度の表彰団体として「あじさいの会」が北九州市道路サポーター１７３団体の中より表彰を受けました。

今後もこの賞に恥ずることなく会員一同、より結束を図り息の長い活動を続けて行きたいと存じます。

（田中幸蔵）

長崎

NPO道守長崎

長崎くんち前に花植え活動実施 ～国道34号 長崎市新大工町～

長崎会議は毎年12月に、長崎市新大工町の国道34号植栽帯で「花いっぱいＸｍａｓストリートプロジェクト」を開催、新大工町の子ども達と一緒に植栽帯に花植え、周辺道路の清掃、街路樹へのクリスマス飾り付け、イルミネーションへの一斉点灯式などの活動をしております。

今年は、長崎くんち『10月7日㈮～9㈰』。9月25日は休日でしたが、新大工町商店街関係者と長崎くんち塾が諏訪神社周辺の清掃を行ったあと、ＮＰＯ道守長崎など８名が約２時間あまり花植え活動を行いました。

植栽帯には雑草が伸び、空き缶などゴミが捨てられている「悲しい」状況でしたが、皆さん熱心に草取りを行い、道路植栽帯にサルビア・ベコニアなど４２０株の花植えをしました。

花植えを行った新大工周辺は、長崎くんちが行われる諏訪神社に直結しており、訪れる観光客に綺麗な花でお出迎えできるようにと実施しました。

（阿野史子）

長崎市新大工町花植え活動を終えて

熊本

道守くまもと会議

祝・帯山中が最高賞 熊本市学校環境緑化コンクール

平成23年度の熊本市学校環境緑化コンクール表彰式（７月）が行われ、最高賞の熊本市賞に熊本市立帯山中学校が選ばれました。

帯山中学校は、緑化活動に力を入れており、道守くまもと会議が運営する道守花壇の管理にも協力していただいています。今回の緑化コンクールについては、「思いやりと節電、環境」をテーマに生徒会や部活動を通して「さし芽１万本作戦」やグリーンカーテンでの節電などの活動を進めた点が高く評価され、最高賞に輝きました。

今年は3月11日に発生した東日本大震災の影響で、家庭や学校でも節電の取り組みが求められました。「学校での緑化を通して、被災地への支援につながれば」という気持ちで緑化活動に取り組んだ帯山中学校の生徒さんたち。この度の表彰で、より緑化活動への意欲も高まったことでしょう。

（村上めぐみ）

大分

湯の坪街道デザイン会議

地域を結ぶ景観協定

湯の坪街道デザイン会議の源は、約30年前に遡ります。時を経て、顔ぶれを変えながら、由布院盆地の中心に位置する湯の坪地区の景観にこだわってきました。ある時は、土地開発公社の高層建築計画に真っ向から立ち向かい、ある時は、１０００坪の更地利用に関わる４人の地権者との協議を続け、湯の坪のおだやかな景観を守る機能を果たしてきました。この流れは5年前に「湯の坪街道周辺地区景観づくり検討委員会」に進化して現在に至っています。地区の人々が主体となり、行政がフォローして作り上げた景観計画・景観協定は、町の外から出店する方々にもわかりやすいルールとなっています。この3年間で店舗の改装・改築にあたっての外観、看板に関する事前相談は30件にのぼります。これからは、更に進化しながら、長年の懸案であるトイレ新設や歩行者が湯の坪街道を気持ちよく歩けるには、生活車両や観光車両とどう折り合いをつけるかなどの課題に取り組む予定です。

（池邉秀樹）

宮崎

カントリーロードパーク、イン小松

紫陽花など四季の花を楽しむ

私たちの村は国道３８８号の２㎞にわたり西側に家々が南側に田畑と川の流れるとても、のどかで、風景の素晴らしい人口１００人の村です。

５年ほど前から、スローガンを「地域のみんなで、汗かいて、楽しんで、宮崎県で一番美しい村つくりをしよう」とかかげ活動しています。

その活動の中心として、地域の人も、そこを通行する人も、みんな喜び、癒されるカントリーロードパーク造りを行っています。

紫陽花ロードと称して２メートルおきに紫陽花の花を、数箇所の広場には四季折々の花を植えて楽しんでいます。

国道の法面の草刈や、歩道の除草、落ち葉の片付けなど、骨の折れることもたくさんありますが通行する多くの人から、「小松の道はきれいで気持ちがいいね!!」と言われるのが、嬉しく自慢です。

これからも、区民がいろいろな形で参加して、『カントリーロードパーク、イン小松』活動を充実進化させたいと思います。（岩切真之）

小松地区ボランティア団体の皆さん

鹿児島

We love 天文館協議会

商店街は、みんなの散歩道

We Love 天文館協議会は、鹿児島市中央地区の商店街活性化を目的に、約一二〇会員の団体・企業の皆様が一体となって活動しているまちづくりの団体です。平成十九年の発足以来、六月と十月の年二回、七〇〇名以上の参加で地区内の「道」と「広場」の一斉清掃を行っています。昨年から、ある会員企業の協力を得て、写真のような最新鋭の「ガム除去機」も活躍しています。

もう一枚の写真は、毎年恒例となっている「奥州仙台夏飾り」で、奥州仙台で商店街を彩った七夕飾りを頂いてきて天文館地区の各商店街に飾らせていただいております。

さらに今春の「第28回全国都市緑化かごしまフェア」では、「まちなか会場」として、地域内が花いっぱいの散歩道になりました。（小林勉）

ご存じですか？

20年後、九州の橋が50歳に…点検と補修で老化防止！

九州地方整備局
道路部　道路管理課

道守九州会議の会員の皆様、日頃の清掃活動や花壇づくり、マイツリーのお手入れなど感謝を申し上げます。

現在、道路に架かっている橋の多くは高度経済成長期に大量に建設され更新の時代を迎えています。九州では20年後、建設されてから50年以上経過する橋が約50％となります。これらの橋を永く、安全で安心して使って頂けるよう九州地方整備局で取り組んでいる内容について紹介します。

1　橋の老化とは？

橋の老化には様々な要因があります。塩害、凍害、漏水、交通量増加による疲労等により部材の劣化、鉄筋や金属の腐食などが発生します。このような現象に伴ってボルトの脱落や部材ちぎれ、コンクリートのはく離・落下など致命的な損傷に発展する可能性も少なくありません。

仮に、維持管理をせず、ほったらかしにしたらどうなるでしょう。橋も人間と同様、歳もとりますし病気もします。

ほったらかしだと穴ボコの発生や継ぎ手部の段差・破損により、交通の障害や騒音問題につながる恐れがあります。

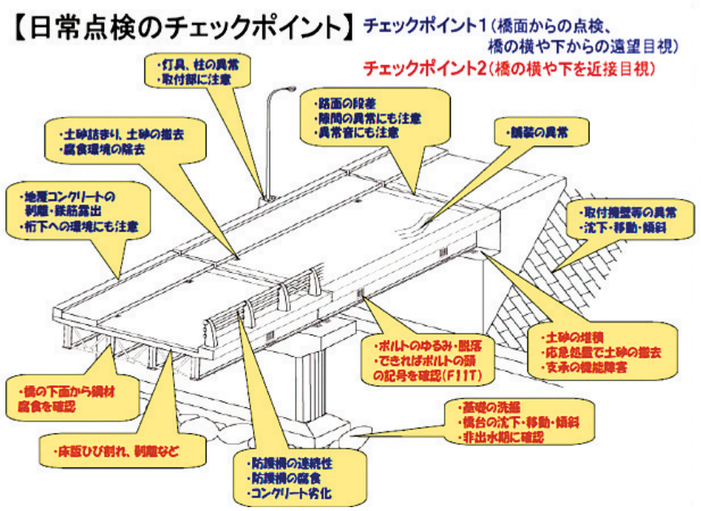
橋の老化（腐食の事例）

2　では、どう対応するの？

私たち道路管理者は①日常の手入れをしっかりと行い②修理が必要なところは計画的に修理をする体制を整えています。

①日常の手入れ

道路のパトロールを二日に一回行っています。これにより橋の走行に危険な要因や箇所の早期発見に努めています。



②計画的な修理

橋は定期的に点検を行い、状態の悪い物や第三者に被害が及ぶおそれのあるものから順番に修理しています。限られた予算の中ですが、「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、人と同様に定期検診・カルテ作成・早期治療を行う計画です。

この計画を踏まえた上で、個別箇所の補修設計を行い、補修・補強工事を実施。管理・記録したうえで次の点検を行うということを繰り返し、損傷が小さい段階で補修する「予防保全」を行うことにより橋の寿命を長らえ健全化に努めています。

橋だけに限らず道路の異常にお気づきの際には最寄りの国道事務所道路管理課をはじめ、「道路緊急ダイヤル」TEL #9910までお電話ください。また、道路に関する提案・意見、苦情、相談等はフリーダイヤル0120-106-497道の相談室までお願いします。

東九州自動車道の工事、着々と

トンネルと橋の連続で、難所を突破
風景街道との連携、地元の期待大きく

北九州市から、大分、宮崎さらに鹿児島を結ぶハイウェイ（東九州自動車道、約436㎞）は、地元からの熱い要望で実現へ向け1歩1歩進んでいる。特に、現在工事中の佐伯―延岡（国土交通省）と日向―高鍋間（NEXCO西日本）は大分と宮崎を結ぶ大動脈となるだけに、地域活性化の起爆剤として期待は大きい。伊勢えび祭りなど活発な活動を展開している日豊海岸シーニック・バイウェイは、高速道路で福岡など北部九州の大都市圏と直結するだけに「一日も早く」と完成を待ち望んでいる。

延岡・日向は、福岡都市圏から時間地図では最も遠い地域。鹿児島・指宿までの距離は1・5倍程度あるが、現実は、ほぼ同じ時間距離（約4時間）となっている。

延岡市を中心に北の「佐伯―延岡間」（約59㎞）は国土交通省が担当、南への「日向―高鍋間」（約33㎞）はNEXCO西日本が建設工事を担当している。

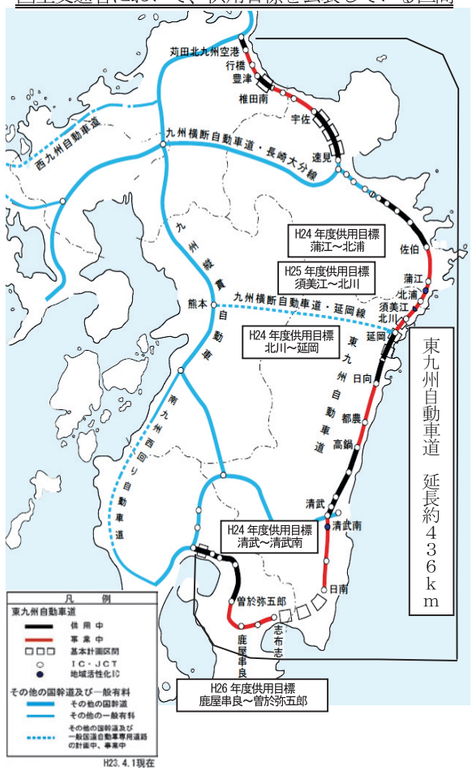
佐伯―延岡間は、有名な難所「宗太郎峠」（国道10号線）があり、宮崎と大分の大きな壁として立ちはだかってきた。自動車道は山中を走る国道10号に比べて、海側にコースを取り、特に蒲江から北川間の完成を急いでいる。佐伯から南に向かう道路（388号線）は、蒲江からはリアス式海岸に沿って走り、カーブが多い。ここを高速道路が走ると、その利便性は計り知れない。この間には11のトンネルが掘られ、12の橋が架けられる。大分県と宮崎県を繋ぐ長大トンネル、「陣が峰トンネル」（2751m）が今年7月貫通し、工事は着実に進んでいる。蒲江から北浦間について、平成24年度には開通の予定だ。しかし、佐伯から蒲江までは完成年度は未定だ。

南への延岡―宮崎間のうち既に完成している延岡―日向（17・6㎞）から、さらに高鍋まで工事が伸びている。この間はNEXCO西日本が担当するが、最も長い鹿場第1トンネル（923m）や本村トンネル（901m）をはじめ6カ所のトンネルを掘削中。切羽の前に立つと、岩石が斜めに柱状をしており、硬い。上部に横の亀裂が入り、岩塊が崩れやすい状況だが「切羽は比較的安定している」と工事担当者は自信を見せている。

一方、橋は日向から都農ICまで、日本海軍発祥の地と言われる耳川河口をはじめ、いくつもの川を渡り、計14橋が建設される。田久保川橋（713・5m）はバタフライウエブ箱桁橋でチョウの羽のような形のコンクリート版を現地で組み立ててゆく新しい工法が採用されている。この区間のトンネルと橋の合計距離は40％に上る。延岡南から都農ICまで15のトンネルと28の橋かかることになる。

宮崎から日南に延びる高速道路は「地すべり」の危険などで、難航しているが、大分―宮崎間が開通すると九州の県庁所在地都市が直結することになり「九州はひとつ」が現実になる。風景街道など従来の道路とネットワークを結び、観光、物産など地域資源が一層、生かされ、九州の交流人口は急激に増えるだろう。（東　久保平）

国土交通省において、供用目標を公表している区間



陣が峰トンネルの貫通状況

東九州伊勢えび海道・伊勢えび祭り豊漁・安全祈願祭

（写真、地図は国土交通省九州地方整備局提供）

一里塚の上から佐賀平野を臨む

鳥栖市秋葉町の長崎街道沿いの建物

ひのはしら一里塚

わたしの好きな道

心に残る「ひのはしら一里塚」

佐賀県・神埼市　長崎街道

私は長崎街道が大好きです。長崎県の出島から佐賀県を通って、福岡県の小倉に至る街道です。主な宿場町は28宿ですが、佐賀県には、そのうちの14宿があります。佐賀は、新しい道は既存の道路を広げるよりバイパスを作る事が多かった為に、現在も街道は生活道路として、多く残っています。

NPOの活動で、長崎街道を「シュガーロード」と呼んで、まちづくりに取り組んでいます。その中でも佐賀県神埼市の「ひのはしら一里塚」は印象が強い場所です。10年程前に初めておとずれたのですが、登ってみた時、鳥肌が立つような感動を覚えました。登ってみると意外に高くて、眼下に佐賀平野が広がっています。「あーここは遠くからでも見えて、江戸時代の旅人が道しるべとして目指し、木陰で休んだかもしれないなー」と思ったものです。

一里塚は、江戸時代、徳川家康の命により、日本橋を基点として、全国の主要な街道に設置されたもので、9m四方で、高さは6mぐらいです。長崎街道で当時の築山を残すのはここ1ヶ所のみになってしまいました。現在は整備されて駐車場もあるのですが、数年前はもっと多くの木がしげり、素朴ながら迫力がありました。頂上には「いぼ地蔵」が祀られ、ふもとには「観音堂」があり、地域の人々に大切にされています。

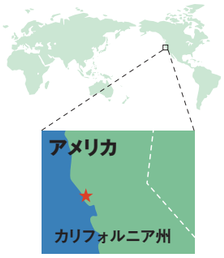
長崎街道を案内したり調査をしたりして、各宿場町をたびたび訪れるのですが、良く保存され整備されたところより、何気なく残っている建物を見るのが好きです。生活道路として残っているので、江戸時代のまま住んでおられる建物や、改修されていても江戸時代の面影が色濃く残っている街並みは、なにか懐かしく肌にしっくりくるような風景です。

ちなみに「ひのはしら」とは、ここに櫛田宮の赤い鳥居が建っていたのでそう呼ばれるようになったと言われています。

さて長崎へ向かう旅人さん、神埼宿の櫛田宮まで、あと一息ですよ。

■プロフィール
八頭司美紀（やとうじ・みき）
㈲ビーカム建築設計事務所代表。NPO活気会で「シュガーロード」でまちづくりに取り組んでいる

海外道事情



道を「楽しむ」

―米国サンフランシスコの事例より―

読者の皆さんは、クルマで円滑に走行でき、全国に渡り均質かつ連続的に繋がる現在の「道路」が明治期の近代化によって誕生したことをご存じだろうか。それ以前の江戸時代、道路は「往還」と呼ばれ、特に城下町では木戸と呼ばれる門によってエリアごとに区切られていた。さらに往還は大道芸人等の居場所や住民の盛り場など、いわば現在の公園や広場のような機能も有していた。今日、道路と言えば、「通る」あるいは「走る」といった移動に使う空間としての意味合いが強いことは周知のとおり。そうした我が国の状況に対して、米国サンフランシスコのユニークな道路を紹介したい。

サンフランシスコは、カリフォルニア州の中央西部、人口約八十二万人の街である。観光地としても世界的に有名なサンフランシスコは、ケーブルカーやレトロな装いを持つストリート・カーなど、街中を路面電車が行き交うことでもよく知られている（写真上段）。湾岸線や市街地内の観光スポット、眺望地点等をつなぐ周遊コース「49マイル・シーニック・ドライブ」もあり、観光ルートとして利用されている。ここで中段の写真を見て頂きたい。一見、どこかの広場に人が集まっているようにも見えるが、これはサンフランシスコの中心市街地を通るマーケット・ストリートの歩道の様子である。歩道にテーブルと椅子が並べられ、平日休日を問わず、チェスを楽しむ人々で賑わいを見せる。勿論、マーケット・ストリートの歩道幅員は片側約九メートルあり、通行人の邪魔にもなっていない。幅員の広さをうまく利用し、街のど真ん中でチェスを楽しむ彼らの姿に、どことなく微笑ましさを感じてしまう。

歩道にテーブル、街の真ん中でチェス

次に下段の写真を見て頂きたい。これは同じくサンフランシスコ市内ノースビーチ近くの路上の様子である。休日になると、至る所で車両の通行を規制し、多くの露店とともにイベントが開催される。この写真は歩行者天国化された坂道の様子だが、座っている人たちの前には仮設ステージがあり、そこでのパフォーマンスを楽しんでいるところである。坂の多い街として知られるサンフランシスコ。彼らはそうした地形の特徴をうまく利用し、いつもは車の通る坂道を観客席として使っているのである。

私にはサンフランシスコの人々が道路を自分たちの生活の楽しみにあわせて使いこなしているように思えてしかたがない。道の大きさやそれを支える地形の特徴を活かし、道は「通る」ためにあるという先入観に囚われず、「楽しむ」ために道を「使う」という彼らの姿勢には学ぶべきところがある。お国柄が違うとはいえ、「道はそもそも楽しむためにある」との考え方は、今日我が国の道路を再考するうえで重要な示唆を含んでいるように思う。実はそうした考え方は、もしかすると江戸時代の日本人にとっては当たり前のことだったのかもしれない。もっと日本の道が楽しまれることを願うばかりである。

プロフィール
柴田　久
福岡大学工学部准教授。カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員、国土交通省九州地方整備局景観研修講師。2011年度グッドデザイン賞受賞。

九州風景街道「フォトコンテスト」■初の入選作品

各ルート協議会と支援組織である日本風景街道九州ネットワークとの共催で、九州風景街道のフォトコンテストが開催され、第1回のルートグランプリが選定されました。平成23年3月から7月にかけて募集・審査されたもので、九州内外から約２００点の力作の応募がありました。

各ルートで審査の結果、最優秀賞1点、部門賞3点（自然風景の景観部門、道の景観部門、人・歴史・文化の景観部門）が選定され、賞状・賞品および各ルート厳選の特産品等が副賞として授与されるとともに、新聞紙上などでも掲載されました。

10月から24年2月にかけて第2回目の募集・審査を行い、ルートグランプリ四季の写真の入選作から九州グランプリを選定していく予定です。

これらの作品は今後、九州風景街道の広報資料として、各ルート協議会と協働して巡回展やシンポジウム会場での展示など、様々な活用を図っていきます。本号では第一回ルートグランプリの優秀作品の一部を紹介します。

『波当津海岸砂模様』　吉良けんこう

『女神大橋』　やまさん

『絶景！呼子大橋』　たこちゃん

『春の里山』　内山省三

『春の金峰山』　上園昇

「もっと、風景街道の情報発信を」

SA、PA、道の駅の活用
「ロゴマーク」で〝見どころ〟への案内を
基本問題小委で論議

平成23年度第1回九州風景街道推進会議基本問題小委員会が、平成23年9月7日に福岡市内で開催され、「今後の九州風景街道の取り組み方針」、「九州風景街道10ルートの活動計画」、「日本風景街道九州ネットワークの活動計画」について審議、今後の活動について論議した。

九州風景街道推進会議事務局である九州地方整備局道路計画第二課から九州風景街道における今年度の取り組み方針について説明を行った後、議論が交わされた。基本問題小委員会の委員から出された主な意見は次の通り。

【方針1】：各ルートの充実した活動を行うための支援について

・ルート代表者会議については、各ルートの活動内容をアピールする場、情報を共有する場として活用していく必要があり、これまで年度末に行っていることに加え、年度途中での開催も検討すべきではないか。

【方針2】：九州風景街道の認知度向上のための広報活動の強化について

・高速道路マップや各地域の観光協会発行の観光パンフレット等への風景街道情報の掲載、SA・PA、道の駅を活用した情報の発信を是非進めて欲しい。

・認知度向上のためには、一般に広く知られることが重要である。また何処がルートなのか、どれが地域資源なのかを分かりやすくする工夫が必要である。

・ロゴマーク等を活用しメインのルートからバイウェイを通じて「見どころ」に辿り着けるように、現地での案内を充実させなければならない。

・認知度の高いイベントを活用して風景街道という名称を広めていくことも重要ではないか。

・各ルートのホームページにイベントの情報を積極的に取り入れる

・ホームページ等の情報を充実させていくことは重要だが、中身を整備する事も重要である。

・九州地域資源マップについては、風景街道の活動で磨き上げた資源（風景街道で価値を膨らませた資源）を紹介していかないと、通常の観光ガイドと変わらなくなるという懸念がある。

◇　◇

今回の委員会では、日本風景街道九州ネットワークの今年度の活動計画についても紹介が行われ、各ルートが行うフォトコンテストの九州グランプリについて推進会議で審査することについて了承された。

また、九州風景街道推進室とネットワークとがうまく連携していかなければならないという意見があり、今後、推進室で作成した資源マップとネットワークが作成している資源カルテとを連動させることや、ルート相互の連絡調整についても連携しながら取り組んでいきたいと推進室では考えている。

▲風景街道について掲載された情報誌の例

都市交通と回遊性をテーマに
11/14に天神でシンポ

福岡市を東西に走る「国体道路」は玄海風景街道の一つとして都市型シーニックバイウェイの形成をめざして研究会などが活動を続けている。11月14日午後1時から、西日本新聞会館の福岡国際ホール（福岡市・天神）で、地下鉄七隈線の博多駅延伸計画に伴なう博多駅－天神の回遊性の向上などをテーマにシンポジウムを開く。

基調講演は家田仁東大教授。パネリストには研究会のメンバーも加わり、都市交通、回遊性、町づくりなどを討論する。参加ご希望の方はハガキ、FAXまたはE－mailで、住所、氏名、会社名（所属名）、連絡先を記入の上、11月7日(月)までにお申し込みください。

お申し込み
㈱西日本新聞会館内
福博：都市シーニックバイウエイ研究会
〒810-0001福岡市中央区天神１丁目4-1
TEL 092-711-5002　FAX 092-711-5001
E-mail　tetsu_yo@elf.coara.or.jp
■定員　200名（先着順）

道守　人物伝

継続は力なり！　年百回の美化活動

道守長崎会議　副代表　**田口昭子さん**

私たちが活動する「環境美化を考える会」は、長崎県西海市大島町で清掃・美化活動を行っている団体です。まちの美化と健康のためにとゴミや空き缶拾いなどを23年前より1人で行っていました。活動をつづけるうちに年々賛同者が増え、平成11年11月の大島大橋開通をきっかけに「環境美化を考える会」を17名で発足。それから12年がたち、今では会員数１１４名、年間１００回以上の活動を続けています。

活動内容は、清掃や除草などを行っていましたが、今では生ゴミの減量化、環境教育も行っています。除草作業では「根っこから除草しないと雑草が生えてくる」と歩道のレンガの裏まで除草しています。

ダイオキシン問題で町内の焼却炉が閉鎖寸前となり、生ゴミリサイクルに取り組んで欲しいとの声がかかり、その時、ＥＭボカシによる生ゴミ堆肥化に出会いました。

即実行！除草作業などから出る落ち葉や、交通の妨げとなる県道沿いのスクールゾーンの街路樹枝などを剪定したのちに撹拌し、ＥＭぼかしからつくる堆肥化も行うようになりました。

「環境美化を考える会」の皆さん

こうした活動を続けるうちに、私たちの活動が町内でも話題となり、かねてから念願でありました伐採した木等を粉砕する粉砕機を市担当職員の力強い協力のもと、四年前に購入して頂きました。また、町内にある大島造船所からはＥＭボカシづくり用撹拌機が贈られました。これらのご好意には、会員一同で何よりも喜んだ次第です。「道を守り続けていきたい」というのが会員一同の願いです。

活動する田口さん

道守たちのトピックス

■「道」の絵が大集合！（みちづくし in 佐賀２０１１）

「みちづくし in 佐賀２０１１」の開催にあたり、道守佐賀会議独自の取り組みとして、子供からおじいちゃん、おばあちゃんまで道守活動をもっと知ってもらおうと佐賀県内の小中学生を始め、一般の皆さんより絵の募集を行いました。

総数１７９点の応募があり、小学生（低学年）、小学生（高学年）、中学生、一般の部門別に最優秀賞と優秀賞を選考しました。花の咲く道や未来の道、人生の道まで「さまざまな道」の素晴らしい絵の応募がありました。

審査員の佐賀女子短期大学山田直行学長は「夢のあるカラフルな作品、発想の楽しい作品、その人の人生の哲学、生き方までもが感じられる作品が多かった。」と感想を述べられています。全作品は「みちづくし」交流会の会場で展示、また優秀作品については、佐賀国道事務所のホームページ（http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/）でもご覧いただけます。

佐賀女子短期大学 学長　山田　直行氏
（佐賀美術協会監事　アジア美術家連盟日本委員会会員　全国教育美術展運営委員）
大学卒業と同時に佐賀県内の高校で美術講師として教鞭をとり、翌年、佐賀女子短期大学の講師となる。美術教育の傍ら、絵画の創作活動を行い、各種の展覧会にふるさとスケッチなどの作品を発表し、現在も作家活動を行っている。昨年4月より10代目佐賀女子短期大学学長に就任し、短大コンソーシアム九州の会長として、北部九州９短大のとりまとめも行っている。

■ネットによる「双方向の交流」で、道守への参加を

現代人にとって、情報を知る手段としてかかせないインターネット。道守大分会議では、情報感度が高いブログやフェイスブックを利用し、地域で草の根活動を行っている人など、マスメディアに載らない情報発信を行い、双方向の交流を深めることを検証している。道守というボランティア活動を、強制的に押し付けるのではなく、自発的に「おもしろそう！」と思ってもらうことが目的。ボランティアの楽しさ、達成感をユニークに伝え、「いいね」と言ってもらうこと。ネットというツールを使い、無関心の若者に参加してもらえるよう仕向けたい。

（道守大分会議事務局　木ノ下　結理）

道守通信 編集後記

○―「みちづくし in 佐賀２０１１」が、11月2―3日、佐賀市内で行われます。道守佐賀会議の皆さんの努力で素晴らしい「手作り集会」となりそうです。これで九州7県を一周したことになり、それだけに準備に力が入ったようです。本当にご苦労様。今回の道守通信も大会に合わせて編集しました。バルーンフェスタ、唐津くんちで一番、佐賀が賑わう季節ですし、ご紹介した「佐賀の道」も楽しんでください。

○―道守活動の前途もいろんな「壁」があります。高齢化、会員・資金不足などなど。交流会で「これからの道」をしっかり話し合い、交流して、元気に乗り越えてゆきましょう。そのお手本として、道守長崎会議の田口昭子さんが「道守人物伝」に登場しました。一人で始めた美化活動が、多くの共感を呼び、今では年間１００回の活動を展開しているとのこと。「継続は力」なり。

○―巻頭随想では楢原利則久留米市長が、耳納山麓の道と筑後川を組み合わせた「風景街道」づくりを宣言されています。文中にもありますが「ハゼの並木」が人の目を奪う美しさとなるのは、この道守通信がお手元に届くころでしょうか。風景街道も広がりを見せています。

※お詫びと訂正

道守通信vol.21夏号20Ｐに掲載させて頂きました支援団体・企業（賛助会員）におきまして一部企業名に誤りがございましたので、下記の通り訂正させて頂きます。ご迷惑をおかけしました皆様ならびに関係の皆様に深くお詫び申し上げます。

誤：大日本コンサルタント㈱大阪支社　⇒　正：大日コンサルタント㈱大阪支社
誤：㈱宮地鐵工所　⇒　正：宮地エンジニアリング㈱

発行 「道守九州会議」
広報誌「道守通信」秋号
平成23年11月2日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331㈹　FAX.092-476-3481

■一般社団法人 日本風景街道九州ネットワーク
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3丁目6番18号
TEL.092-292-8138　FAX.092-292-8249

道守HP　http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/　e-mail　michimori@qsr.mlit.go.jp